

2024 年度 「中国 大連通信」

2024 年 12 月 24 日

駐大連北九州市経済事務所

◆所 長 瀧口 達弘 ◆副所長 松江 拓尚
◆副所長 呂 俐 ◆職 員 畢 偉宸
松江 E-mail: fusuo Zhang@kitakyusyu-dl.com

～中国への進出事例紹介（医療法人）～

北九州市八幡西区に所在する「医療法人さんか」が今年、中国の病院と協力協定を結び中国での医療サービスを開始しました。

かつては多くの日系企業が中国へ進出していましたが、近年ではその数を減らしています。今回はその中で、中国に進出した「医療法人さんか」の取組みを紹介します。

■医療法人さんか「さんか八幡西クリニック」

医療法人さんかの中核を担う「さんか八幡西クリニック」は、北九州市八幡西区のイオンタウン黒崎横に所在する耳鼻咽喉科と歯科のクリニックです。今回中国に進出したのは耳鼻咽喉科の部門で、花粉やダニなどによって引き起こされるアレルギー性鼻炎や慢性鼻炎などの根治を目指す「鼻の日帰り手術」を得意としています。

多くの病院では投薬治療に特化しており、病院に通い続ける負担や薬を飲み続けないと治まらない症状に多くの人が悩まされていましたが、「さんか八幡西クリニック」では日帰り手術で根治が可能な為、術後の日常生活が大幅に快適になることが大きなメリットとして挙げられます。

他にも有吉サテライトクリニック（健診センター、婦人科）や広島のカープロード鼻専門クリニック、介護センターなどの運営を行っています。



※さんか八幡西クリニックの所在地

■中国の病院「仁樹眼耳鼻喉」との協力協定

中国での事業は、日本から医師を派遣し、日本の質の高い医療を中国現地で提供するという方式を取っています。

具体的には、医療法人さんかは中国人ビジネスパートナーと現地法人「浩豪医療科技有限公司」を設立し、中国の病院「仁樹眼耳鼻喉¹」と協力協定を締結、この仁樹眼耳鼻喉の上海医院に医師を派遣し医療サービスを提供しています²。

仁樹眼耳鼻喉医院と協力協定を築くうえで欠かせなかったのが、中国人ビジネスパートナー任氏の存在です。任氏の持つ人脈などを駆使しながら、様々な病院とコンタクトを取り、最終的に仁樹眼耳鼻喉と協力締結を結ぶに至りました。



※右側：「医療法人さんか」三箇栄司事務長



※右側から2番目：任輝氏

■中国での治療内容①「鼻の日帰り手術」

中国でもアレルギー性鼻炎・慢性鼻炎の根治を狙った「鼻の日帰り手術」を主に実施しています。この手術では通常、後鼻神経と呼ばれるアレルギーによるくしゃみや鼻水を引き起こす神経を切断します。

この後鼻神経の周囲には並走して太い動脈も通っており、手術には高い技術力が必要とされます。中国では、この手術ができる医師は大病院などに所属するごく少数で、できたとしても長時間の手術で患者への負担も大きく、入院が必要になっているのが現状です。

■中国での治療内容②「Bスポット療法（EAT治療）」

コロナ後遺症に対し効果的な治療法が確立されていない今日において、上咽頭に対するアプローチが効果的であると注目をされています。日本の耳鼻科領域ではごく普通に施術されている、Bスポット療法（EAT治療）の問い合わせが仁樹眼耳鼻喉にも殺到しており、鼻炎の診断とあわせて施術を行っています。

Bスポット療法（EAT治療）により、上咽頭炎が引き起こす疲労・頭痛・倦怠感・肩こり・呼吸の違和感などの症状も改善したと多くの報告を受けているとの事です。

¹ 2018年に杭州で創業。その後、深圳や広州、上海で病院を展開

² 現状では、隔週の週末に派遣。軌道に乗れば、診療日を増やしたいとの意向あり。



※2021 年開院の上海医院の院内



※手術器具を点検する坂口医師

現在、中国で治療を手掛けているのが「鼻の日帰り手術」のパイオニアである坂口医師です。坂口医師は日本で約 30 年間、累計 1 万件以上の内視鏡を用いた鼻の手術を行っており、日帰り手術としては西日本地区で最初に手掛けた医師として業界でも有名な医師です。数多くの症例に併せて独自の治療法を確立している名医で、医療法人さんか理事長の三箇敏昭医師も坂口医師の弟子として従事していました。

2024 年 7 月から隔週で治療にあたっていますが、既に「日帰り手術」の執刀も行い、中国でもその技術力が高く評価されています。



※上海・仁樹眼耳鼻喉の医師たち、中央が坂口医師

上海・仁樹眼耳鼻喉
長寧区安順路 88 号宝地・新華 B 座南 3 階
TEL400-685-8537

■結びに

中国ビジネスの特徴の1つとして挙げられるのが、スピード感です。企業のトップが決断したら、もの凄いスピードで物事が進展していきます。今回の事業でも、わずか数か月の間でトントン拍子に物事が進んでいったとの事です。

そのスピード感に対応する為にも必要なのが準備です。医療法人さんかの事務長が中国事業の担当をしていますが、コロナ前から中国でのビジネス展開を考えていたそうです。その為に、ビジネスパートナーと訪中を重ね関係各所を訪問したり、昨年には大連市の大学で語学留学をするなど各方面で準備を重ねてきました。そして、自社が持っている強みと中国でのニーズがマッチした結果、今回の進出に至りました。

実際に中国がどんな国か、どんなニーズがあるのかは現地に来ないと分からない事は多いと思います。中国での事業展開に少しでも関心がございましたら、是非一度足を運んでみて下さい。当事務所が全力でお手伝いさせていただきます。